

■（２１０）ラグビーW杯、世界遺産、そして甲子園

岩手県立釜石高校が２９日、春のセンバツ高校野球への出場を決めた。昨年秋の県大会、東北大会での活躍を評価されて、２１世紀枠で選ばれた。約４年１１カ月前の東日本大震災で被災した県内沿岸地域の高校として、震災後初の甲子園への切符をつかんだ。

地元はこの１年、大きな話題が続く。約１年前は、２０１９年ラグビー・ワールドカップ（Ｗ杯）の開催地に選ばれた。被災した市民の盛り上がりが課題とされた中、秋のイングランド大会で日本代表が活躍して関心が集まった。７月には、橋野鉄鉦山・高炉跡が世界遺産登録されて、「鉄のまち」としての誇りを取り戻そうという機運が生まれた。そして今春の春のセンバツ高校野球大会への地元高校の出場だ。沿岸地域の有数の進学校も震災時、避難所になった。発生から８月上旬まで約５カ月間、延べ１万４千人が体育館に避難した。周辺に建てられた多くの仮設住宅団地は今も多くの被災者が生活が続けている。

家族を亡くすなど被災した選手が９人。甲子園出場は選手たちの練習のたまものだと分かっているが、彼らのプレーを通じて、風化に少しでもあらがえることも願う。（山）